

[参考事項]

成果情報名：秋田県におけるネギ黒腐菌核病の発生（初確認）

研究機関名 農業試験場 生産環境部 病害虫担当
担当者 齋藤隆明・藤井直哉・他1名

[要約]

県中央部のネギの露地越冬6月どり（品種「坊主不知」）の圃場で、全国的に問題となっているネギ黒腐菌核病の発生を初確認した。

[キーワード]

ネギ・ネギ黒腐菌核病・初確認

[普及対象範囲]

県内全域

[ねらい]

2022年5月、県中央部のネギの露地越冬6月どり（品種「坊主不知」）の圃場の一部で、ネギが黄化・枯死する症状が発生したため（図1）、この原因を特定する。

[成果の内容及び特徴]

- 1 発病部位から得た分離菌に関して、生物検定による病原性の有無や宿主範囲の調査のほかに、遺伝子診断を行った結果、ネギ黒腐菌核病（*Sclerotium cepivorum*）と同定した。
- 2 本病は、全国的に問題となっているネギの土壌病害であり、北海道・東北地方での発生は北海道や青森県で確認されているが、秋田県での発生は初確認である。
- 3 本病の病徴は、地上部では下位葉が黄化し、生育不良となり、発病が進展すると枯死する。地下部では、ネギの軟白部にごま粒状の黒い菌核が多数形成され（図2）、被害がひどい場合は簡単に抜き取ることができ、ネギ腐敗病が混発していることもある。
- 4 本病の発病適温は10～15℃であり、比較的低温で多くなりやすい（図3）。

[成果の活用上の留意点]

- 1 ネギ黒腐菌核病菌の同定に係わる遺伝子診断は、秋田県立大学が行った。
- 2 本病菌において、ニンニクやタマネギ、ニラでも黒腐菌核病として確認されていることから、ネギ以外の品目に関しても今後の発生に注意が必要である。
- 3 本病に対する防除対策は令和4年度農作物病害虫発生予察情報特殊報第1号（令和5年2月27日発行）を参照する。

[具体的なデータ等]



図1 ネギ黒腐菌核病の発生圃場
(地上部の黄化・株の枯死)



図2 ネギ黒腐菌核病の病徴

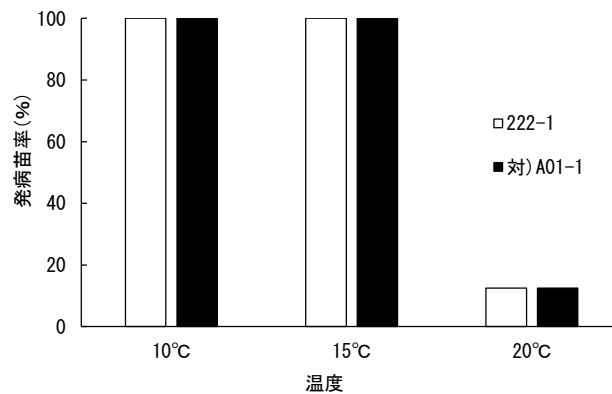


図3 各温度における発病状況

- 1) 222-1：現地のネギ圃場から分離された菌
対)A01-1：ニンニク黒腐菌核病菌（（地独）青森県産業技術センター農林総合研究所から分譲）であり、本病菌はネギ黒腐菌核病と同種の菌である。
- 2) 供試品種「夏扇/パワー」、2～3葉期の苗。2.5号ポリ鉢に鉢上げした。
- 3) 供試した培土は菌を培養したふすま培地（接種源）を重量比で1/10程度混和したものを使用した。
- 4) 10°C、15°C、20°C・12時間日長・湿度70%に制御したグローブスチャンパーで約20日間栽培した。
- 5) 1反復当たり8本とし、発病の有無により発病苗率を算出した。試験データは3反復の平均値である。

[その他]

研究課題名：先端技術を活用した新たな園芸作物病害虫防除技術の開発

研究期間：令和4年度

予算区分：県単

掲載誌等：令和4年度農作物病害虫発生予察情報特殊報第1号（令和5年2月27日）